

総合科目C

時間割コード	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室
22308	社会・制度一般	武田 宏子	教養教育高度化機構	木5	162教室
講義題目	The governing of risks and institutions				
目標概要	<p>Risk has been receiving much scholarly attention in the last 30 years as a key concept to illuminate the essence of contemporary advanced capitalist societies. Extant studies on risk in various fields of social sciences (such as Risk Society by Ulrich Beck) have already illuminated that the governing of risk is an extremely tricky task for any agents involved. As a result, the increased attention to the notion of risk often highlights the need for institutional reforms to seek a better way of dealing with risks.</p> <p>The overall objective of the course is to critically examine institutional implications of risk in contemporary advanced capitalist societies (including Japan). It begins by exploring the question of why the notion of risk receives such scholarly attention today, with special reference to Beck's discussion on Risk Society. Then, the discussion turns to various issues concerning the governing of risks and their institutional implications. Towards the end of the course, the course takes up two case studies, intimate/familial relationships and food safety, to discuss theoretical points in a more concrete manner.</p>				
評価方法	1. One 2000-word essay (40%) 2. The end-of-term written examination (60%)				
教科書	There is no textbook. The reading list will be included in the course outline which will be circulated in the first week.				
ガイダンス	第1回授業日に行う。				

時間割コード	講義題目	担当教員	所属	曜限	教室
21013	放射線を科学的に理解する	渡邊 雄一郎 鳥居 寛之 小豆川 勝見	教養教育高度化機構	金5	1101教室
目標概要	<p>原子力発電所の事故以来、環境中の放射能汚染について、また放射線量について、連日報道されてきた。放射線による人体への影響について、専門家の間でも確定的なことが言えず意見が分かれたことや、そもそも国や電力会社の発表に対する不信感が広がったこともあって、半ばヒステリックなまでに放射線に対する恐怖を訴えるといった反応も見られた。メディアでも度々特集を組んで解説がなされたが、なかには記者自身がよく理解しないまま不安を煽るような記事が掲載されることも多く、必ずしも国民一人一人が納得して正しい科学的知識を身につけたか疑問である。これまで30年以上にわたって、放射線の基礎的知識に対する教育が十分になされてこなかったことのつけが、科学的リテラシーの欠如となって表れている。</p> <p>放射線を理解するには、物理・化学・生物学・医学・工学など様々な分野の知識が必要となり、全てを網羅することが難しいことは確かであり、それはテレビに登場した専門家が様々な分野にわたったことから窺える。大学においても、系統立った授業が行われているのは一部の医学系学科や放射線技師養成科などに限られ、一般の学生が学べる機会が少ない。</p> <p>今回のテーマ講義は、夏学期に鳥居が開講した自主講義「放射線」を発展させ、教養学部の3人の教員：鳥居(粒子線物理学)・小豆川(環境放射化学)・渡邊(生命環境応答学)を中心に、学内外のゲスト講師も招いて、なるべく広く体系的に、放射線に関する科学的知識を身につけ、定性的および定量的に正しく判断する能力を養うことを目的とする。講義は理科生を主な対象とするが、意欲のある文科生も歓迎したい。</p> <p>初回：前半ガイダンス、後半【鳥居】放射線入門(放射線とは、身の回りの放射線) 2回目以降： 【鳥居】放射線物理学(放射線の物質との相互作用、エネルギー付与) 【小豆川】放射線計測学(放射線の測定原理・方法・問題点) 【小豆川】環境放射化学(実際の環境中の放射線量と解釈の問題点) 【渡邊】放射線生物学(放射線の生体への影響、放射線防護) 【中川恵一：医学部附属病院放射線科】放射線医療(放射線診断・放射線治療) 【鳥居】原子核物理学(放射能とは、原子核構造・核変遷・核分裂) 【石渡祐樹：工学系原子力国際専攻】原子力工学(原子力発電、エネルギー利用) 【鳥居】放射線物理学(エネルギー損失過程の定式化、線量計算) 【小豆川】環境放射化学(予想される今後の放射線量の推移) 【藤原徹：農学部応用生命科学】植物栄養・土壌肥料学(放射性物質の植物への吸収) 【渡邊】放射線の利用(育種、滅菌、工学応用など) 【鳥居】加速器科学、放射線科学のまとめ</p>				
評価方法	出席とレポート				
教科書	教科書は使用しない。				
ガイダンス	第1回授業日に行う。				

時間割コード	講義題目	担当教員	所属	曜限	教室
22317	ドストエフスキーを読む	金沢 美知子	文学部	火5	117教室
目標概要	<p>よく知られている世界の文豪たち。その中にロシアの作家は実は大変多いのです。トルストイ、ドストエフスキー、ツルゲーネフ、チャーホフ等々。例えばレフ・トルストイは作家であるだけでなく、思想家としても尊敬され、多くの人々が世界に各地から助言を求めて彼に会いにやってきました。それからなんといってもドストエフスキー。ドストエフスキーはジイド、カミュ、小林秀雄やその他数多くの作家、批評家に愛され、宗教や精神分析学の領域に大きな影響を与えました。皆さんの中には、ドストエフスキーの小説だけでなく、ドストエフスキーを論じた文章を目にした人もいでしょう。ドストエフスキー自身の作品とは比べられないにしても、そうしたドストエフスキー論もなかなか迫力があって、一読の価値があります。そしてツルゲーネフは日本の明治期の文章改革に大きな役割を果たしましたし、チャーホフは日本の演劇界では長い間人気の演目でした。日本には明治期以来の熱烈なロシア文学受容の歴史があるのです。</p> <p>ドストエフスキーの作品を分析し、ドストエフスキーの世界を深く味わってもらうこと、そしてその作業を通してロシア文学に関心を持ち始めたばかりの人にもっとロシア文学を知ってもらい、既にロシア文学に魅了されている人にはその魅力の源泉について考えてもらうこと、それがこの授業の狙いです。</p>				
評価方法	授業参加によって評価。詳細は第一回の授業で説明します。				
教科書	授業中に指示をする。				
ガイダンス	第1回授業日に行う。				